

27 タケノコカワニナ

(トゲ(トウガタ)カワニナ科)

兵庫県ランク:A

Stenomelania rufescens

環境省ランク:VU

種の概要

伊豆半島から九州の内湾環境下にある川の感潮域に生息する。干潮時は淡水となる滲筋や浅い溜まり、河岸周辺の砂泥底などで生活する。殻長40mm程度になり、多くは殻頂部が欠落し、太短く見えるが、産地により殻形変異がある。殻表面は濃い茶褐色から黒褐色を呈し、微弱な皺と鈍い光沢がある。幼貝期には淡い地色に稲妻模様が現れることもある。卵生。

主要な選定理由

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
			△	○	○	△	○

県内分布

加古川市

県内における生息状況及びその他特記事項

新規追加種。県内では、加古川のみでまとまった個体群が存在するが、生息範囲はそう広くない。このほかには、たつの市富島川での記録がある(福田,1996)が、度重なる調査においても再確認できていない。汽水性貝類の豊富な西隣の岡山県でも近年の記録はなく、絶滅とされている。大阪湾も含め加古川の生息地は瀬戸内海東部における貴重な存在である。

保護上の留意点

加古川においては、防潮堰直下の工事が行われて濁水が常に流下するなど、底生動物にとっては少なからず影響はあったと考えられる。ただし、現状では汽水域の干潟環境をはじめとする加古川の工事や保全に対しては、管轄する国交省や地域団体が現状調査やモニタリングを行っているなど、現状維持に努める配慮を試みていることで、維持されると考えられる。



写真提供：増田修

写真提供：増田修



【執筆者】 増田修

